



## 今年12月に一斉改選

民生委員・児童委員の任期は3年で、各地区からの推薦を受けて選ばれます。今年12月には、新しい民生委員・児童委員を選ぶ一斉改選が行われます。

各委員は、それぞれの担当区域で活動しますが、その中で悩んだり不安な時には、民生委員同士で相談したり、一緒に対応したりすることができます。市役所や社会福祉協議会なども連携・協力して活動をサポートしていきます。

### 担当区域

高齢者が居る世帯  
障害のある人が居る世帯  
生活に困っている世帯  
子どもが居る世帯など

↑ 世帯状況把握  
情報提供  
相談・援助

地区担当民生委員・児童委員

↑ 連携・協力

主任児童委員

↑ 連携・協力

市役所・社会福祉協議会・  
地域包括支援センター・  
障害者基幹相談支援センター・  
学校・医療機関など



### 気に掛けてくれる心強い存在

同じ山本町で、渡辺さんの自宅から歩いて25分ほどの場所に住む桶本元子さん（右）。「渡辺さんは『電話で話すより、直接会って元気な姿を見る方が私も安心だから』と、暑い日も寒い日も、歩いて声を掛けて来てくれます」と言います。気に掛けてくれる人が近くに居てくれることを心強く感じている桶本さん。「困った事があったら、何でも言ってね」という渡辺さんの言葉が、日々の暮らしの安心感につながっています。

**信頼関係が続ける力に**  
渡辺さんは活動を始めた頃に、関係機関や地域の人、老人クラブと協力してサロンの立ち上げに関わりました。2カ月に1回の集まりには、毎回30人ほどが参加しています。サロンに来た人同士がつながり、普段の近所付き合いに生かされていると感じる渡辺さん。「そういう変化を見ると、少しは役に立てたかなと思っとうれしくなります。地域の人の信頼関係が私の力になって、これまで活動を続けられたのだと思います」と振り返りました。

◎地域福祉課（☎0942・30・9174、FAX0942・30・9752）



これまでの活動などを記録したノート。資料やメモなどで、とても分厚くなっています



### 身近な相談相手

山本町に住む平尾優子さん（右）。視力が弱く、病院との行き来などで困る事があります。ある時、手助けを必要としていることを伝える「ヘルプカード」の存在を知りました。それを渡辺さんに相談したところ、市役所からもらってきてくれました。バッグに付けて外出すると、カードに気付いた人がドアを開けてくれることがあったそう。「渡辺さんが日頃から声を掛けてくれるので、困ったときにすぐ相談できます」と話しました。

### 子どもから高齢者まで

民生委員は、厚生労働大臣から委嘱されたボランティアです。全国で約23万人、久留米市内では575人が活動しています。子どもや子育て世代への支援を行う「児童委員」も兼ね、子どもから高齢者まで、地域の人の暮らしを支えています。活動では、一人暮らしや高齢者の世帯などを定期的に訪問。困っている事が無いか声を掛けたり、地域包括支援センターなどの支援関係機関につないでいたりしています。

### 一人暮らしを中心に見守り

渡辺久子さんは、山本町柳坂区で民生委員・児童委員として活動しています。この地区には、75歳以上の一人暮らし世帯が22軒。渡辺さんは月に2回、見守りのために各世帯を回ります。

### 仲間も活動を支援

渡辺さんの活動は今年で9年目。記録のために使っているノートには、訪問した日時やメモがびっしりと書き込まれています。

これまでの活動の中には、一人では解決が困難な事もあったそうです。「そんな時は、同じ地域の民生委員の会長や仲間に来てもらったり、地域包括支援センターの人に手助けしてもらったりしてきました」。周囲のサポートも、渡辺さんの活動を後押ししています。

# 困り事を支援につなぐ

民生委員・児童委員は地域を支える相談相手

一人暮らしの高齢者や、子育て世帯、障害のある人など、地域にはさまざまな人が暮らしています。民生委員は、日頃の困り事や心配事を一緒に考え、行政機関などにつなぐ役割を担っています。



渡辺久子さん（山本町）

山本町柳坂区を担当する民生委員・児童委員。始めたきっかけは、何か人の役に立つならという気持ち。今年で9年目